

## 平成23年度第1回資産運用評価委員会 議事要旨

1. 日時 平成23年6月29日（水） 16:30~18:15
2. 場所 退職金機構ビル 7階大会議室
3. 出席者 奥村委員、小粥委員、鈴木委員、米澤委員（宮森委員欠席）
4. 議事要旨

(1) 平成21年度評価報告書における指摘事項対応状況の報告について（資料1）

〔主な意見等〕

○特段なし

(2) 平成22年度資産運用結果報告について

各事業本部の資産運用結果について以下の順で報告がなされた。

（中退共本部、建退共本部給付経理・特別給付経理、清退共本部給付経理・特別給付経理、林退共本部）

〔主な意見等〕

中退共（資料3）

○運用ガイドラインの抵触により1ファンド（外国債券）の減額を行ったこと及び資産管理上重大な問題が生じる可能性が高まったことにより、1ファンド（外国株式）の解除を行ったことについて議論があった。

建退共（資料4）

○特段なし

清退共（資料5）

○特別給付経理は、資産規模3億円余で国債のみで運用しているが、給付経理でも50億円のうち自家運用で国債30億円くらい、委託運用で17億円、そのうちかなりの部分がまた国債となっているので、コストを考えれば国債のみを購入することも検討する必要があるのではないかとの意見や、日本株式、外国株式を外して債券に換えて自家運用中心に一度組み直すということも考えてはよいのではとの意見があった。

林退共（資料6）

○特段なし

【全体について】

○勤退機構の運用は基本的に自家運用のウェイトが非常に高く、これはキャッシュフロー対応が必要だということであるが、企業年金のパターンとはかなり違うので、そのところをど

う考えるのかということをごできるだけ議論しておく必要があるとの意見があった。

- 定性評価の中にリスク管理も入っているはずなので、システムエラーが起こるような会社では、この定性評価の中でチェックできるように定性評価のあり方も考えていくべきではないかとの意見があった。

**【今後の予定について】**

- 次回7月7日の第2回委員会においては、本日の審議を踏まえた「運用の目標等の部分に関する評価報告書（案）」を事務局で用意し、それについて審議することとされた。

以上